

日本語を母語としない子どもたちとともに

JSL 日本語指導教育研究会通信

JSL (=Japanese as a second language)

令和3年1月 第4号

発行者 会長 熊本 修治

日本語指導教育研究会 事務局

第4回研修会 オンライン開催

全体研修1 適応支援について

壱岐中学校 越智公子先生 内浜小学校 平山智子先生

実際に起こった事例を元に、適応支援について話をさせていただきました。内浜小学校、壱岐中学校では、日頃から日本語指導担当が担任の先生をサポートし、児童生徒、クラスメート、保護者を結びつける役割をされていました。また、問題が起こった際に、円滑に解決できるよう、担任の先生、児童、保護者、クラスメートそれぞれに、適切な働きかけをされていました。それと同時に、問題を対象児童生徒の成長のチャンスと捉え、問題に直面した児童生徒がさらに成長できるような指導をクラスや学年と連携して行っていました。日本語指導担当として、普段から担任の先生、児童、保護者から信頼を得ていることがとても重要だということを改めて感じさせられました。

○保護者と担任と日本語担当が該当児童の不安と思案の経験を見守り、連携して対処することが、今後の行動にいかせるのだなと思いました。

○中学生になると担任よりも周りの生徒を巻き込んで生徒同士で考えさせるという手立てが重要であることが改めてわかりました。

○それぞれの生徒さんの様子を学年、心の教室、すべての職員に共有すること。また学級の生徒にもその生徒の様子について考えさせ、動かすことをされていることがとてもいいなと思いました。

第5回研修会 オンライン開催

第4回小中学校部会

城浜小学校 早田浩二先生 下條道子先生 城香中学校 日高美和先生 春吉中学校 薄里美先生

第4回小学校部会では、『読む力を伸ばす指導の工夫』について小学校部の先生方にお話しいただきました。普段からそれぞれの学校で読む力を伸ばすために行っている指導、市販の教材、自作の教材を紹介していただきました。児童の実態に合わせて、工夫された指導が行われていました。今回共有できた指導の工夫をより良い指導につなげたいと思います。

また、中学校部会では、日本語指導におけるICT教育についての実践や工夫を共有しました。

○国語の教科書についている音読音声データを渡して、家で練習させている。

○グーグルフォームを使って読解問題を作って、宿題にし、解かせている。子どもにはテストと言って、解かせている。選択問題で、解き終わったら点数が出る。確認や宿題にちょうどいい。

○Kanza soft を使って、語彙を増やしている。ミライシードをワールドルームでも利用している。

○レベル別日本語多読ライブラリーは、CDとルビがついている。日本の文化や伝統についての内容が入っている。最後に読解確認をしている。

○読売新聞ワークシート通信の配信を利用している。学年に応じた内容を選ぶことができ、知識の確認、文法の確認、内容の確認をしている。また、読んだ後で、感想を書かせたり、意見文を書かせたりしている。

○google form や KANZA file が使えるようになりたいと思う。

○先生方の実践をメモにとるのに必死でした。ありがとうございました。